☆☆☆「ステップアップハイスクール」豊高定時制 ☆☆☆

あゆみ 第23号

平成25年11月19日（火）

定時制課程　教頭発行

郷土を愛する心をはぐくむ

やっぱり「ふるさと」。生まれ育った地はもちろん、あなたの「こころのよりどころ」になる地こそが、あなたの「ふるさと」。

杞柳教室の作品は、定時制職員室前に展示しています。心あたたまる伝統工芸をしばしお楽しみください。

国の伝統的工芸品「杞柳」づくりに挑戦しました。

～私たちのふるさと但馬の歴史に思いをはせて～

１１月１８日（月）、兵庫県杞柳製品協同組合の田中榮一理事長さんと専任講師の小西久子さんのお二人を講師にお招きして、杞柳（きりゅう）教室をおこないました。１年生１２名が参加し、国の伝統的工芸品に指定されている杞柳細工づくりに挑戦しました。

ページ下段にも紹介している通り、豊岡の杞柳細工の歴史は今からおよそ２０００年前にさかのぼると言い伝えられています。田中理事長さんからその長い歴史と、わたしたちのふるさと豊岡でこの伝統工芸が栄えた背景、そして製品の利点と現代的な発展の方向性についてご講義いただきました。製品は通気性がよく、しかも適度に水分を吸収してくれる「コリヤナギ」の性質、水害に強いという特性などについて教えていただきました。

さて、いよいよ作品づくりに挑戦です。手にやさしく、暖かさが伝わってくる「コリヤナギ」を規則正しく編み上げていきます。素材の「ぬくもり」が心の底までしみてくるせいでしょうか、皆作り始めると無言で作業に集中し、あっという間に３時間近くが経っていましたね。時間の経つのを忘れる、とはまさにこのことなのだと思います。「ものづくり」には不思議な力が秘められているのですね。

「ふるさとの良さを知り、ふるさとを愛し続けるこころ」を育てることは、これからの但馬を担うみなさんが生きていく原動力になります。２０００年の歴史を持ち、日本中探してもこの豊岡にしかない杞柳細工という伝統工芸は、まさにわたしたちの誇りと言えるでしょう。

杞柳細工の歴史について（兵庫県杞柳製品協同組合の冊子より）

柳行李やバスケットとして親しまれてきた伝統の杞柳産業は、豊岡で生まれ、但馬の風土に育ち、かばんの町の基礎を築いてきました。平成４年、国の伝統的工芸品に指定され、柳行李、小行李、柳・籐籠の３つの部門があります。　～中略～

杞柳産業の始まりは、西暦２７年、日本にきて但馬の地を開拓したと言われている新羅の国の王子、天日槍命（あめのひぼこのみこと：出石神社に祭られています）によって伝えられたと言い伝えられています。　～中略～

７２２年の続日本紀（しょくにほんぎ）に記載があるほか、奈良の正倉院の御物に豊岡で作った柳箱が１０数点保存されています。

【私たちのふるさと豊岡の製品が、こんなに古くから日本の歴史の中に登場していたのですね】